

導入機能 (大まかなもの)	【導入機能】に係る委員意見	【導入施設イメージ】に係る委員意見	【導入施設】に係る委員意見
道の駅登録要件			
休憩機能 24h利用できる 駐車場、トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 特に重視 ゆとりのある障害者に配慮した駐車スペース 駐車場は、「道の駅渋滞」を招かないアクセスの工夫と十分なスペース確保が必要。また、バスやタクシーの乗降が一般車の出入りの妨げにならないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型車や観光バスに配慮した駐車場 障害者、男子への配慮 サイクリストに配慮 屋根付きのバイク・駐輪スペース 女性用トイレは通常の3倍 トイレは清潔感があり、数も多いほうがよい 女性用トイレは、1箇所の広さよりも、小規模でも設置箇所が多いことの方が利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> RVパーク パウダールーム必要 高齢者配慮の手すり、スロープ、買い物カート 授乳室 ガソリンスタンド、EV・水素ステーションの設置 路線バス・デマンドバスの乗入れは、高齢者等の買い物弱者の誘致についても対応可能 大型車両等の駐車場及びドライバーが仮眠のとれる休憩施設(シャワー室・仮眠室等)
情報発信機能 道路及び地域に関する情報を提供	<ul style="list-style-type: none"> 特に重視 観光や利用者ニーズに対応する大事な場所 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報誌の発行など、県内外の利用者に向けた情報発信 口コミで広まる機能 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット、デジタルサイネージ WiFiスポット 携帯、カメラ充電エリア 赤城山ツーリズムの発信拠点 TONTONのまちの売り出し 農産物を「道の駅」での販売に留まらず、前橋地域に利用者を誘導する工夫 グリーンツーリズム窓口設置、野菜農家と連携したグリーンツーリズム実施補助 赤城山総合PR拠点として、観光案内機能の強化 不動産情報や雇用情報は道の駅にそぐわない、ワンストップで済む事案とする 「まえばしコンシェルジュデスク」の情報は、ニーズが高いと思われる情報の取捨選択と情報の質の確保が必要と思われる。
地域連携機能 文化教養、観光レクリエーションなどの地域振興施設	<ul style="list-style-type: none"> 特に重要 農業都市としての機能を満載し、楽しめる場所 施設内での滞在時間が長くなる施設、空間の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 目玉となるメニュー開発が必要 鮮魚センターを検討 地元企業による特産物の販売 赤城山を中心とした観光資源と地場産品、赤城の恵等をパッケージ化し旅行会社へ販売 	<ul style="list-style-type: none"> 前橋の特産を使用したピザ・低価格で豚料理を提供 珍しい野菜を販売 観光客に配慮し直売所が1日を通して品薄感が出ないような工夫 既存農産物直売所との連携強化 ヨーロッパの「マルシェ」をイメージした、おしゃれな演出 前橋の特色を持たせた場外市場のような空間の創出 マルシェによる地場産品の販売 コンビニエンスストアは防犯面から必要 塩原蚕種との連携及び有効活用の検討 インキュベーション施設、チャレンジショップは、産官学金の連携で実現させたい。 赤城山麓周辺でとれる農産物・畜産物を地域ブランド化 観光客だけではなく、地域住民も買いに来なくなる魅力的な市場 県内農業学校で収穫された農産物を販売する「ぐんまの農業学校直売所」の設置 地元食材を地元の人が調理することで地域感創出 個性的なメニューを考案 うどん暖簾街で粉食文化を伝える カートが利用できる設計 残った野菜は買い取り加工等で商品化 友好都市の物産を販売 市内学生(小～大)が開発した商品販売 コンビニエンスストアは不用 地場産の野菜・畜産加工品の販売が想定されているが、前橋産に拘らず広く群馬県内の物産も取り入れた方が、来場者の人気につながる。 「食」については、本「道の駅」の目的化のためにも、全国区のキーテナント(原田のラスク、相模屋食料のとうふなど)の誘致が必要。 シルクで世界に名を轟かせた「マエバシシルク」を再発見・再発掘 ここでしか買えない物を販売 企業の支援
交流・体験機能	<ul style="list-style-type: none"> 重要 	<ul style="list-style-type: none"> イベントスペースは地域連携機能の位置づけを希望 子どもが屋外で遊べるスペースも必要 シンボルタワー 家族連れのリピーターを増やすための遊び場 	<ul style="list-style-type: none"> 出張出展スペース 野菜ハウス キャンプ場不用、BBQ場は設置 ドッグラン、巨大迷路、バンジージャンプ等は前橋ならではのコンセプトに合致しない ポルタリング・スラックライン 豚肉の加工体験 そば打ち、ピザ焼き体験 子ども預かり 田植え、脱穀体験 収穫したものを調理できる施設 ペット預かり 憩いの場としての庭、空間を作る 植樹により昆虫飼育、観察路作り 田口のほたる鑑賞 田んぼ水路改修で生物復活 各種イベントの開催、地場産品の販売、体験農園、子供プレイルーム等が盛り込まれており、本「道の駅」が通過点ではなく目的地となる施設となっている。 水田をそのまま利用した米作等体験
防災・復旧機能	<ul style="list-style-type: none"> 防災上の位置づけ整理し機能の検討をした方がよい 防災・復旧基地となれる機能 防災機能は既存の施設を用いたほうが効率的 	<ul style="list-style-type: none"> 駒寄SICとの一体的産業地域・物流拠点化を推進するとともに道の駅に防災機能を持たせる 緊急電源装置、上水保管機能、医療品・食料の物流保管機能、災害後の道路復旧保全機能、廃棄物処理機能 大型トラックの整備施設 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急医療施設は不用 本格的な施設の維持は困難 エイドセンターは必要 多目的防災センター等は不用 雰囲気は馴染まないし中途半端では役に立たない 災害発生時にレスポンスよく対応できる防災機能を持つ
その他の機能		<ul style="list-style-type: none"> 農業経営者育成の場所となり、施設等も充実 旅行業機能を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ガソリンスタンド ピオトープの一部として水生植物園化 水族館は前橋ならではのコンセプトに合致しない 水族館、温泉施設、ホテル、プラネタリウム等は不用 中途半端な施設では人を呼べない クヌギ、コナラ、などを植えて日陰と昆虫の棲家に 図書館カウンター バイオマスは技術開発が進めば導入 就農希望者等への指導 前橋品種の栽培 温泉、足湯施設 周遊散歩道を設定して地域資源を活かす 水族館や地ビール工房、ワイナリーについては、中長期的な検討が必要 大型車両等の給油施設、車両の点検・整備・修理の出来る施設
	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の日常利用を中心に観光・来街者を+αとする計画 都会にできる道の駅として全体的にハイセンスな若人にも好まれる施設 		<ul style="list-style-type: none"> 道の駅や周辺に防犯灯を設置 自然を感じられる構造物(木造等)が良い 煉瓦建物等によるシンボル棟の設置 飲食、遊戯施設等については、来場者にリーズナブルと感じさせる価格設定と品質を確保する必要がある。 施設の建物は、文化・歴史をイメージする物、地域ブランドをイメージする物、地域そのものをイメージする物等

道の駅 導入機能・施設(案)一覧表

導入機能 (大まかなもの)	導入施設イメージ	キーワード	導入施設 (具体的なもの)	摘要	想定規模	先進事例
道の駅登録要件						
休憩機能 24h利用できる 駐車場、トイレ	○大型車、普通車に加え、バイクや自転車に配慮したスペース ○電気自動車等への燃料供給設備 ○観光バスや公共交通に配慮したスペース ○女性やユニバーサルデザインに配慮した、清潔感のあるトイレ ○お母さんがくつろげる、プライバシーに配慮したスペース		乗用車、大型車、二輪車駐車スペース バイクラック EV充電施設 バス、タクシー乗降スペース 清潔なトイレ(パウダールーム、ベビーチェア) 多目的トイレ(ユニバーサルデザイン) 赤ちゃんステーション	路線バス、デマンドバス等乗り入れ 特に女性用スペースを広く確保 オストメイト対応等 授乳、おむつ替えスペース	【参考】 ※現時点で想定している規模 ○全体面積: 約3.5ha ・駐車場: 約1.65ha ・建物: 約2,300m ² ・緑地、調整池等: 約1.62ha	【事例1】 ＜川場田園プラザ＞ ※農業プラス観光 ・人口約3,700人の村に年間約120万人が来訪 ・リピート率は7割 ・豊富な地域資源へのアクセスポイントとして機能している ・年間利用者約120万人 ・販売額約10億円 ・全体面積:約5ha ・建物:4,750m ² ・駐車場:1ha、公園等:約3.5ha
情報発信機能 道路及び地域に関する情報を提供	○上武道路や高速道路等の情報や災害情報等の発信設備 ○利用者ニーズに対応した相談員(コンシェルジュ)の設置 ○ラジオ、テレビ等のマスメディアを通じた情報発信	情報	デジタルサイネージ、タブレット、大型モニター、Wi-Fi まえばしコンシェルジュデスク マスメディア、企業コーナー	道路、災害情報 観光情報・相談・案内 移住相談・案内 前橋市不動産情報 仕事・雇用情報 行政情報や休日当番医等 シティプロモーション(前橋の強みを来訪者に伝える市の魅力向上や移住促進を図る仕組み)		
地域連携機能 文化教養、観光レクリエーションなどの地域振興施設	○地場産食材を使用した料理や前橋ならではの料理を提供する場 ○地場産品の販売や6次産業化を実践する場 ○地域ブランド(赤城の恵)発信の場 ○起業や商品開発等を支援する場 ○防犯面にも寄与する、24時間営業の施設 ○障害者雇用の場	食	前橋食堂・レストラン 農産物直売所 加工・販売施設 地域の店 インキュベーション施設 チャレンジショップ コンビニエンスストア	学校給食メニューの提供、地場産豚肉料理、川魚料理、大人数受入、生ハム、本格窯焼きピザ、オリジナルスイーツ等、地産地消のブッフエレストラン 地場産野菜等販売、棚田米の販売 地場産品を活用した加工・販売施設、(実演販売、限定品販売)赤城の恵販売 既存直売所運営者の出店エリア、地区毎物産コーナー 創業、起業を支援するオフィス 少ない資金で出店できるスペース	【事例2】 ＜もてぎ＞ ※6次産業化推進 ※防災館、防災井戸を設置 ・柚子、エゴマ等の特産品を加工する「もてぎ手づくり工房」を整備 ・年間利用者約144万人 ・販売額約7.2億円 ・全体面積:約4.1ha ・建物:4,000m ² ・駐車場:2.4ha、河川公園:1.3ha	
交流・体験機能	○各種イベントや伝統芸能を披露することのできる場 ○各種教室など、多様な方々の交流の場 ○室内で子供が遊べるスペース ○多様な世代が楽しく農業を体験できる場 ○来訪者が、上毛三山や前橋市街地を眺望できる場 ○家族やグループが屋外で飲食や宿泊ができる場 ○ペットと遊べる場 ○前橋の花である「ばら」を鑑賞できる場 ○有事の際に、復旧作業の拠点となる広場 ○多様な世代が楽しめる場	交流 体験 体験 自然 交流 自然 交流	福祉ショップみんなの店2号店 イベントスペース、屋根のある舞台 調理室、会議室、作業室 子供プレイルーム 体験農園、果樹園、レンタルファーム(※1) 展望台 オートキャンプ場、BBQ設備(※1) ドッグラン ばら栽培施設 多目的広場(芝の広場)(※1) 伝統行事展示 子供大迷路(※1) 親水エリア バンジージャンプ	市内の障害者施設で作られた商品の展示、販売 イベントの開催、伝統芸能披露 そば打ち、ピザ焼き、陶芸、養蚕等の各種体験、会議、刀鍛冶工房等 子供一時預かり所併設 収穫体験ができる施設 吹き出し設置 災害時:大規模なヘリポート(通常時のツリーハウス、アスレチック、遊具、クライミングウォール、ふわふわドーム併設)		【事例3】 ＜とみうら＞ ※観光案内人常駐 ・特産品のピワを加工、オリジナル商品を開発 ・地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売 ・年間利用者約50万人 ・販売額約5億円 ・全体面積:約0.9ha ・建物:1,531m ² ・駐車場:0.32ha、公園:0.05ha(河川沿い)
防災・復旧機能	○災害時に利用できるライフライン等	防災	緊急医療施設 マンホールトイレ 備蓄倉庫 耐震性貯水槽(飲料水兼用)、井戸 多目的防災センター、消防団詰所 発電施設(環境配慮)(※1) 水素ステーション、オイルステーション	平常時は、夜間医療センター的な施設 防災用品、消防車などを展示、過去被害記録展示等 太陽光、地熱、小水力、バイオマスなど		
その他の機能	○環境に配慮した再生可能エネルギーの導入やエネルギー基地 ○農産物の生産地から消費地までの物流を担う施設や販売する場 ○農業経営者を育成する場 ○水害抑制 ○個性的な機能		農作物の物流施設(※1) 農業経営者育成農場、研究室、学習室 調整池 海の魚を観て食べられる水族館 釣り堀(※1) 温泉施設 サイクルステーション 簡易宿泊・休憩施設 ホテル プラネタリウム 保育所 地ビール工房(※1) ワイナリー(※1) ミュージアム ミニ遊園地(※1) ウォーキングコース、サイクリングコース	新商品開発のためのラボ機能、障害者や高齢者雇用に配慮 平常時は、フットサルやBMX、インラインスケートなど、多目的に利用可能 水槽の海水魚をレストランで食べられる 足湯等 自転車修理機能併設、レンタサイクル、おもしろ自転車 シャワー設備、ロッカー、コインランドリー 見学可 見学可 地元企業の開発設備、製品等を展示する施設 るなばあくII 近隣道路等の活用を検討	【事例4】 ＜(仮称)常陸太田＞ ※農業経営者育成 ※H28年度オープン予定 ・多品種トマトハウスを整備し、栽培管理者として農業者等養成専門大学の新卒者を採用 ・6次産業化に取り組む農業者等が、加工品づくりの試作や研究ができる専門スペースを設置 ・全体面積:2.2ha ・建物:約1,555m ² ・駐車場:約1.3ha ・体験ほ場:約1,000m ²	
	○施設全体でユニバーサルデザイン導入を基本とする ○インバウンド対応のため、主要施設の案内を多言語表示、ピクトグラム表示					